

菖蒲地区文化財お散歩マップ解説集

菖蒲町栢間の歴史と自然を歩く

菖蒲町栢間とは



- 久喜市菖蒲町上栢間、下栢間、柴山枝郷に相当する地域
- かつて旗本内藤家が治めていた土地

旗本内藤家について



旗本内藤正成像 『菖蒲町の歴史と文化財』より転載

- 三河国以来の徳川氏の家人
- 初代の正成は、家康の父広忠の代から仕え、弓・槍の名手として軍功著しく徳川十六神将のひとりに数えられる
- 天正18年(1590)、家康に伴って関東に入府し、菖蒲領5か村に5000石の知行地を賜る
- 内藤氏は、埼玉郡栢間村に陣屋を置き、幕末まで存続した

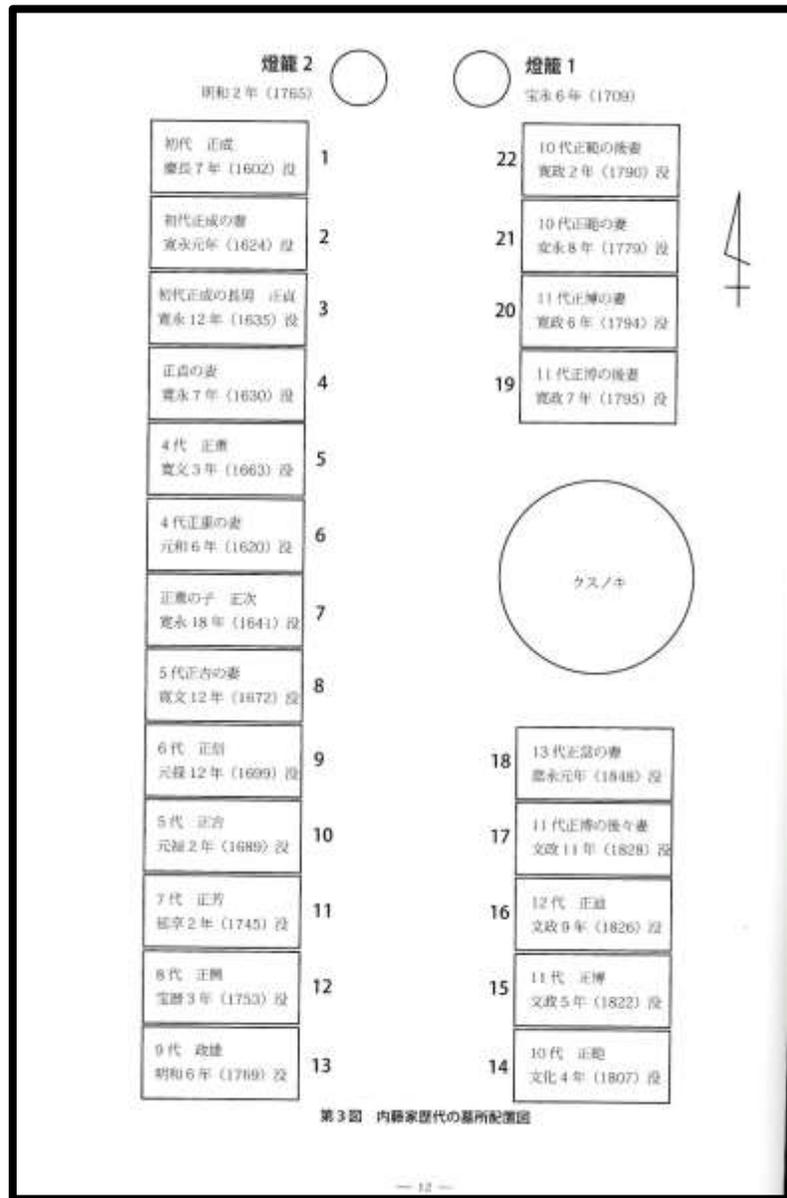
市指定文化財

①-1 善宗寺 旗本内藤家歴代の墓所



- 陣屋に隣接した内藤家の菩提寺
- 初代当主正成以下幕末に至るまでの内藤家当主とその夫人を供養するための宝篋印塔22基が立ち並ぶ

旗本内藤家歴代の墓所(市指定文化財)



内藤家歴代の墓所配置図

『久喜市文化財調査報告書 第1集 久喜市指定文化財「旗本内藤家歴代の墓所(宝篋印塔ほか)」・「善宗寺嘉永三年銘宝篋印塔及び宝塔記碑」調査報告書』

より抜粋

①ー2 嘉永三年銘宝篋印塔及び宝塔記碑



- 本堂の前に嘉永3年(1850)銘の5mを超える大型の宝篋印塔がある
- この宝篋印塔を建立した由来を記した碑がある。この碑には発願主(家老や陣屋諸用人)と世話人(5か村の名主など)144人の名前が記されている

嘉永三年銘宝篋印塔及び宝塔記碑(市指定文化財)

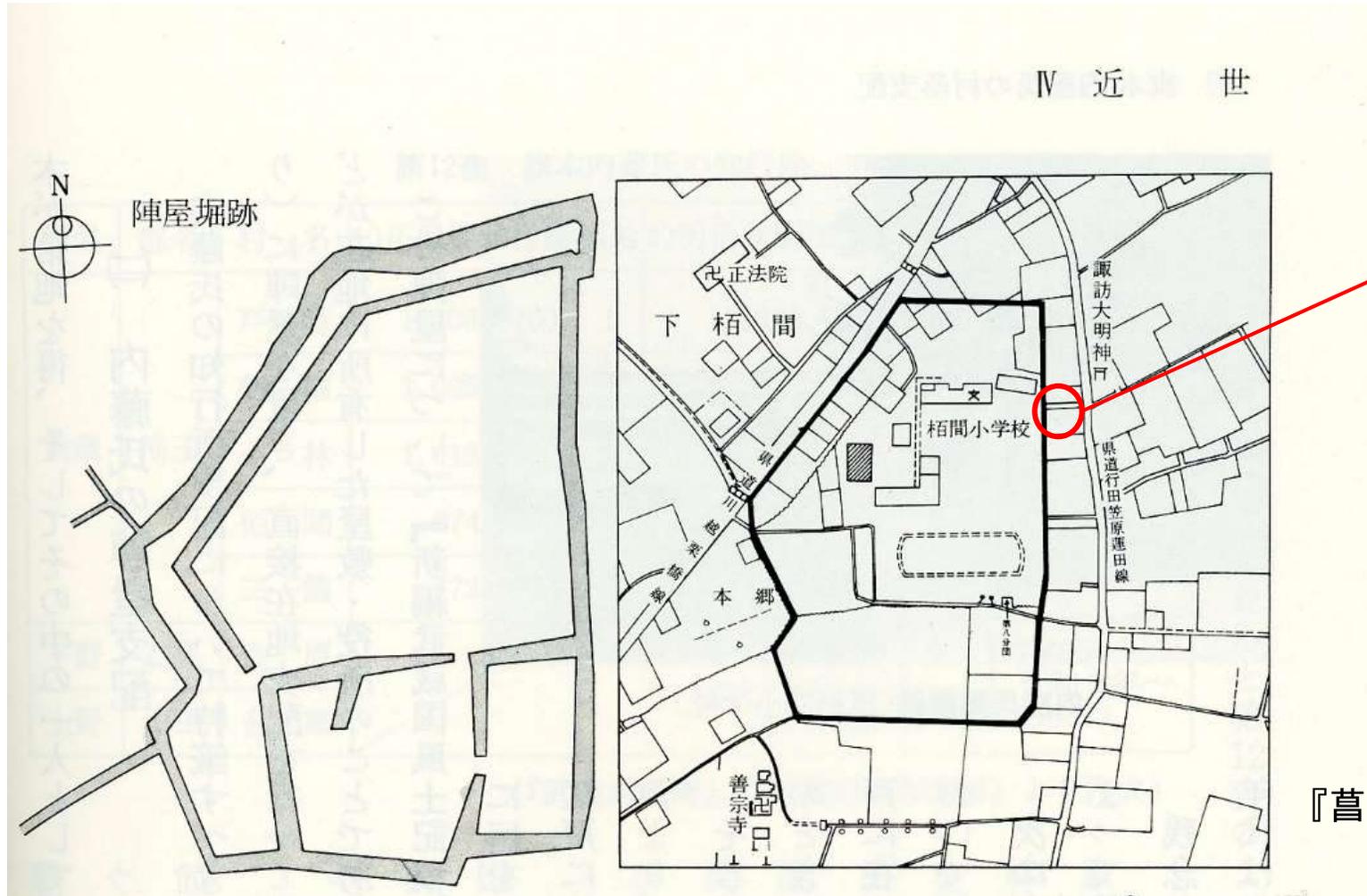
②内藤陣屋跡



栢間小学校

- 陣屋とは、江戸時代に代官、その他の役人などが各任地に所有していた屋敷・役舎のこと
- 栢間小学校がその跡地の一部とされる

内藤陣屋 堀跡



市指定文化財

③正法院 木造十一面観音立像



- 正法院は康正元年(1455)、領主鳩井三郎の開基
- 市指定文化財である「木造十一面観音立像」を所蔵
- 像高は68.5cmで、室町時代の作とされている
- 宝髻(頭髪の部分)頂上に仏面をいただき、地髪部上下2段に変化面10個が配されている
- 普段は公開されていません

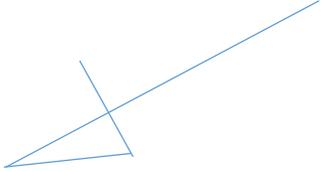
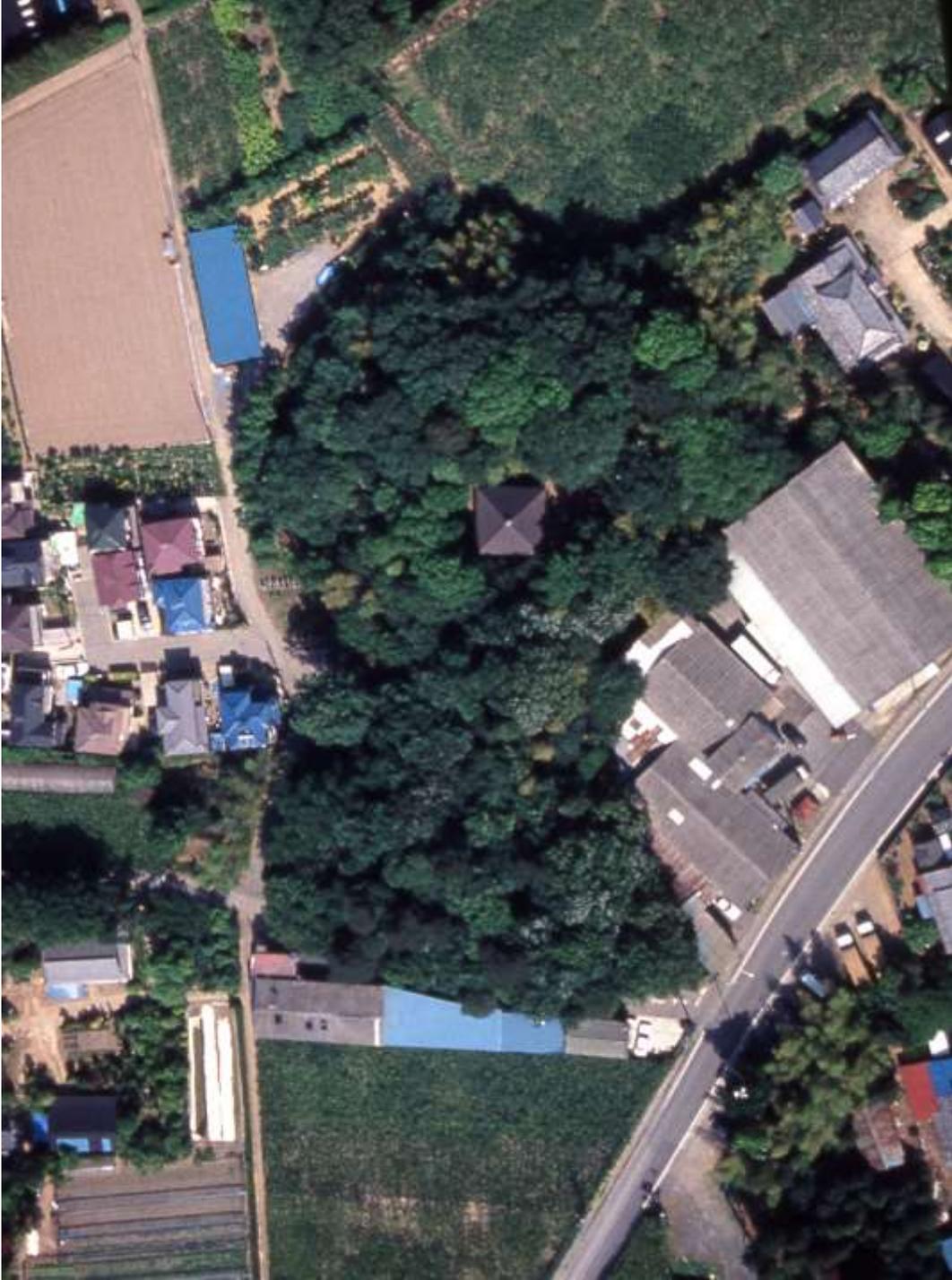
木造十一面観音立像(市指定文化財)

④天王山塚古墳



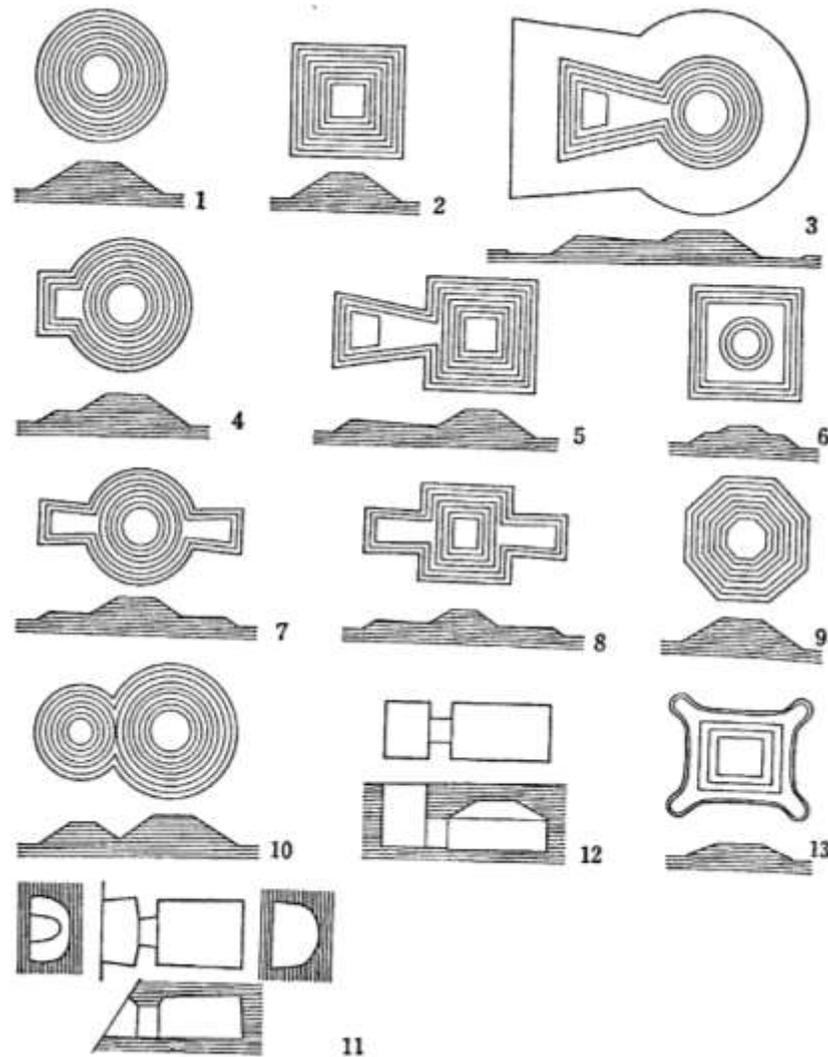
天王山塚(埼玉県指定史跡)

上空から見た天王山塚



古墳とは

- 古墳時代(1800年～1400年前)に作られた墳丘を持つお墓のこと
- 全国各地で約16万基確認されている
- 大阪府や奈良県の古墳が有名だが、日本海側や関東地方にも多い



- ①円墳
- ②方墳
- ③前方後円墳
- ④帆立貝型前方後円墳
- ⑤前方後方墳
- ⑥上円下方墳
- ⑦双方中円墳
- ⑧双方中方墳
- ⑨八角墳
- ⑩双円墳
- ⑪横穴墓
- ⑫地下型横穴墓
- ⑬四隅突出方墳丘墓

『古墳辞典』より転載

天王山塚古墳の墳形

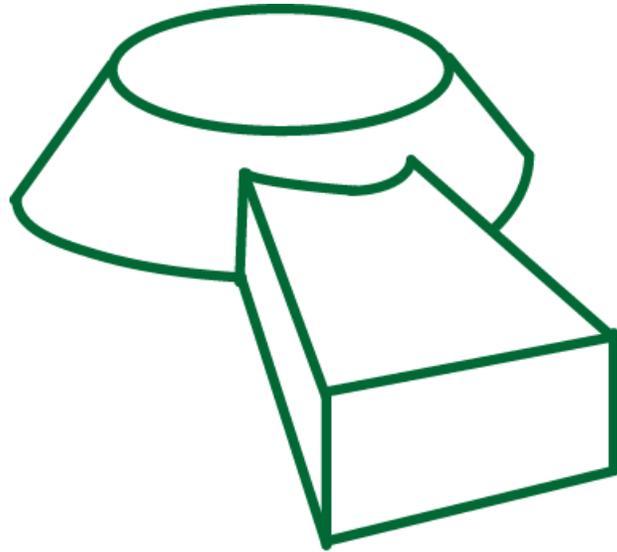


前方後円墳

古墳の部分名称

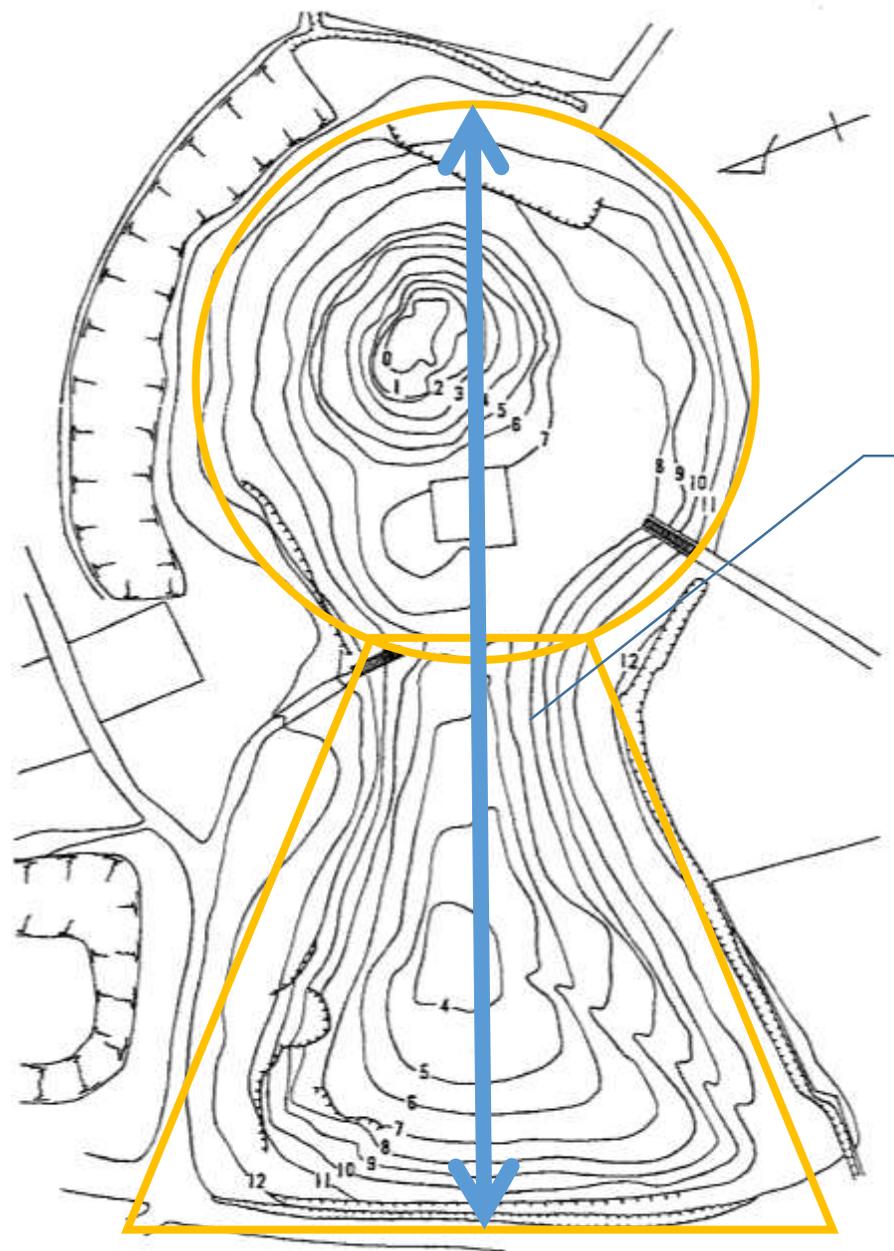


前方後円墳



- 3世紀中ごろに成立し、全国的(岩手県～鹿児島県)に広がる
- 墳長は10mほどのものから数百mに達するものまでである
- 大王やそれに近い有力者の墳長200mを超える古墳はすべてこの形式
- 大王墓や地方の最上位首長の墓に用いられた
- 最大の前方後円墳は大阪府の大仙古墳(仁徳天皇陵)の486m
- 埋葬施設である後円部に儀式の場であったと考えられる方形部が接続した形式
- 7世紀初頭に築造を終了する

墳長



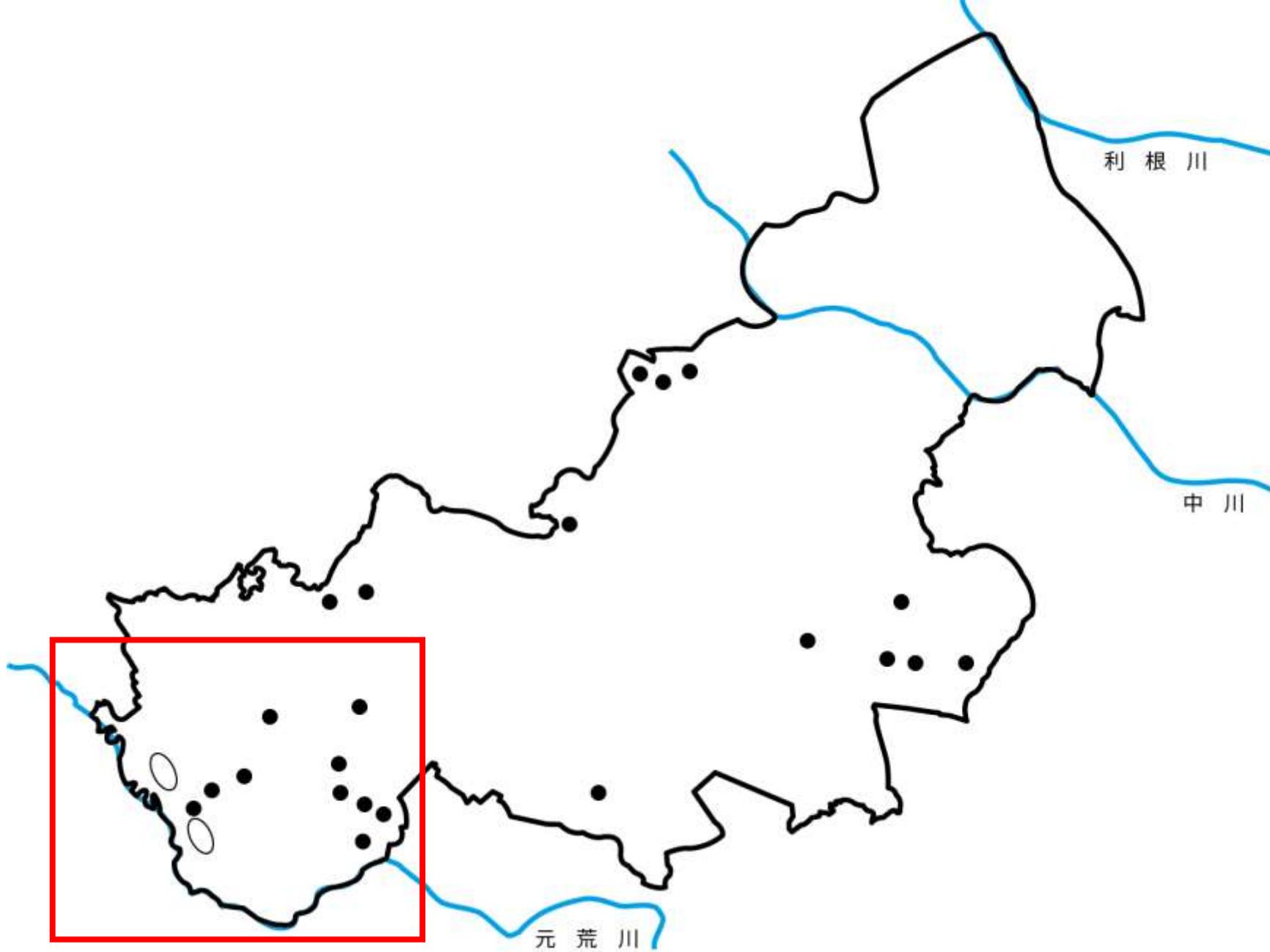
全長107mの大型古墳

埼玉県内の前方後円墳の大きさ

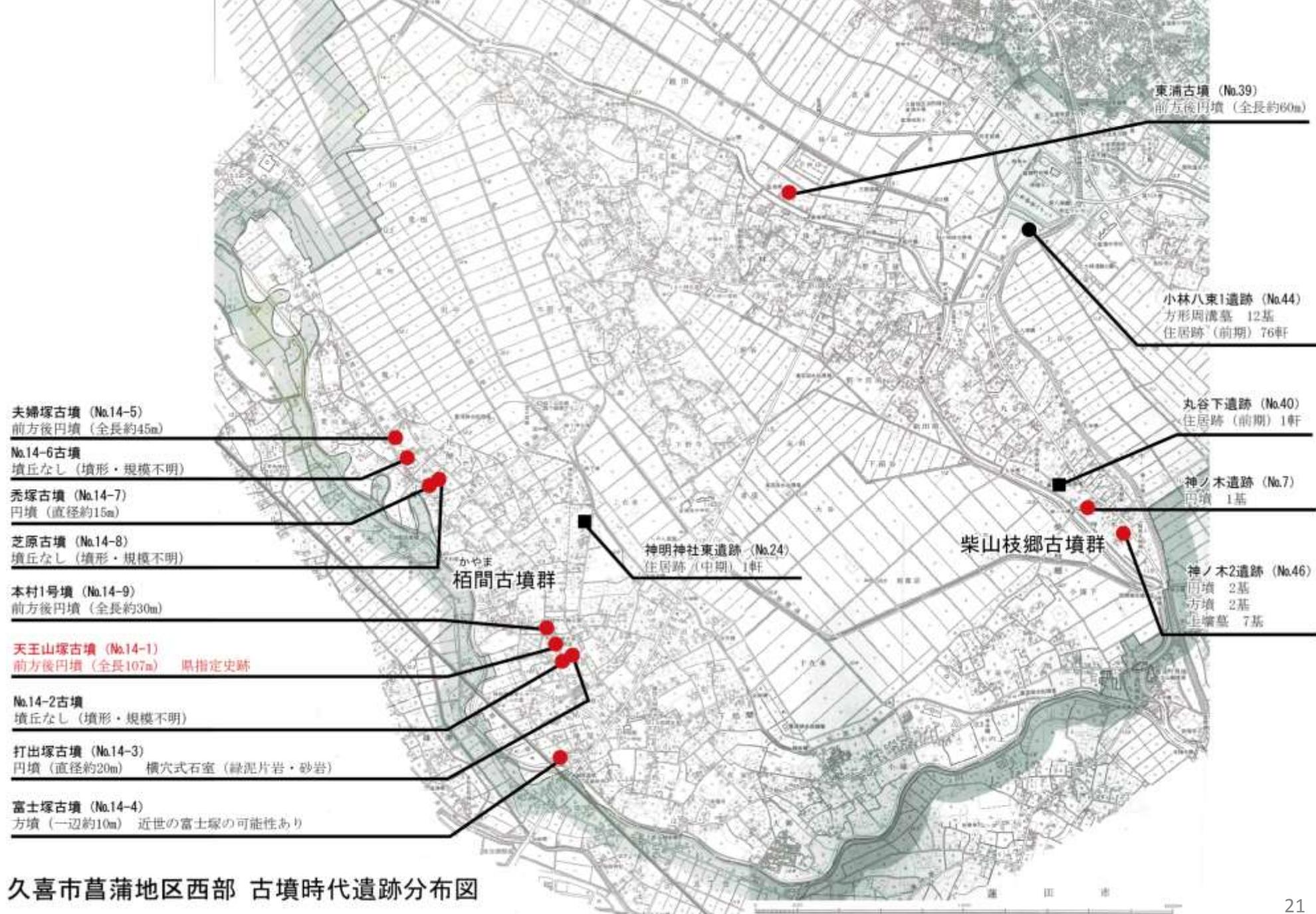
- 1位 二子山古墳(行田市・さきたま古墳群) 138m
- 2位 稻荷山古墳(行田市・さきたま古墳群) 120m
- 3位 野本将軍塚古墳(東松山市) 115m
- 4位 小見真観寺古墳(行田市) 112m
- 5位 鉄砲山古墳(行田市・さきたま古墳群) 109m
- 6位 天王山塚古墳(久喜市菖蒲町上栢間) 107m
- 7位 真名板高山古墳(行田市) 104m
- 8位 若王子古墳(行田市) 95m
- 9位 将軍山古墳(行田市・さきたま古墳群) 90m

『埼玉県古墳詳細分布調査報告書』のデータを元に作成。

久喜市の古墳時代



久喜市内の古墳時代の遺跡



久喜市菖蒲地区西部 古墳時代遺跡分布図

天王山塚とはどんな古墳か

立地

- 元荒川左岸の台地上にある
- 西側は元荒川低地、後円部後方には笠原低地(現鴻巣のあたり)が広がる
- すぐ北側は奈良時代の集落跡がある。神明神社の北側には弥生時代、古墳時代の集落跡。天王山塚の南側には元荒川低地に沿って縄文時代～奈良平安時代の集落跡が見つかっている

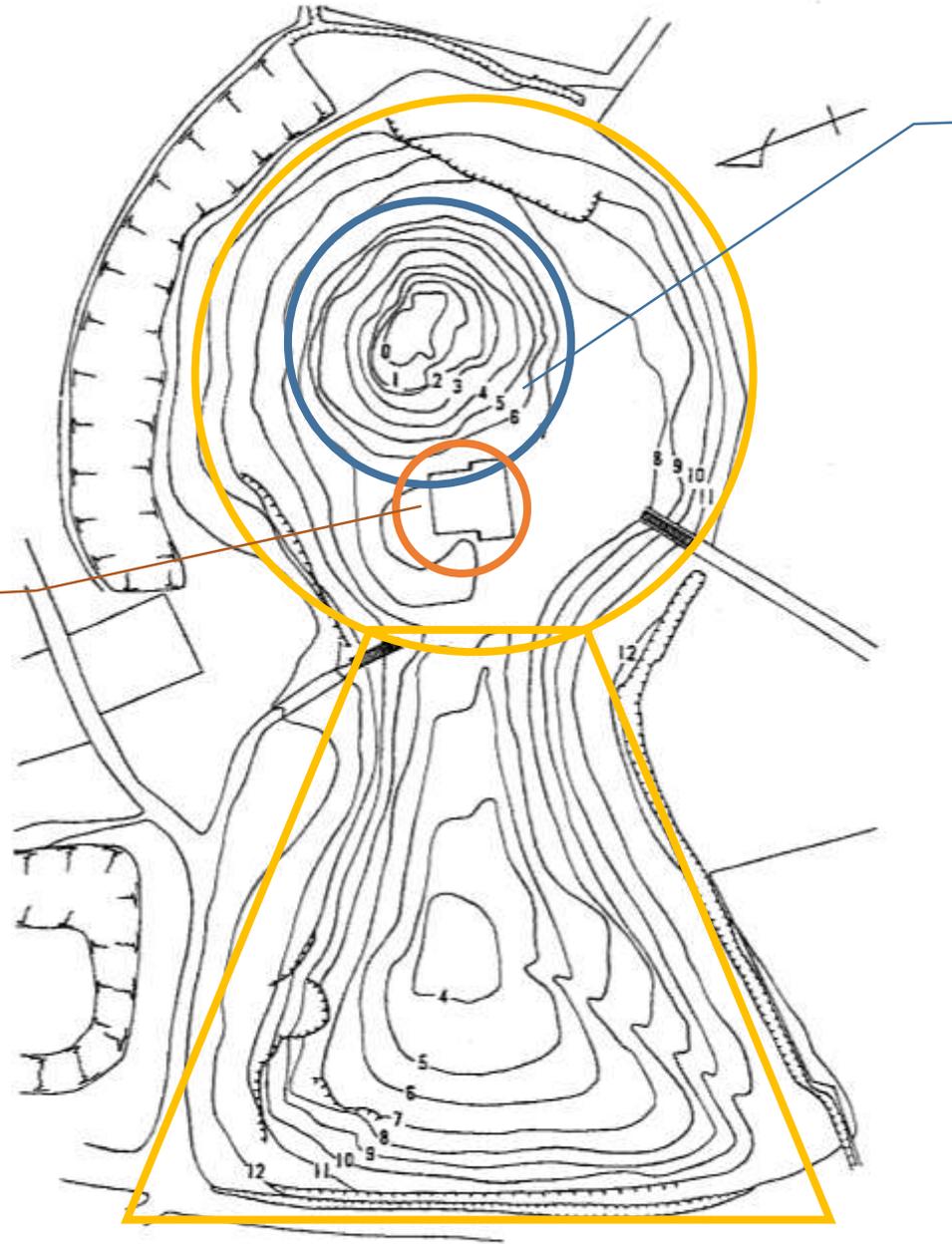


埼玉県東部の古墳分布

『神楽の世界と久喜の歴史・文化』より転載

天王山塚の特徴

薬師堂



富士塚

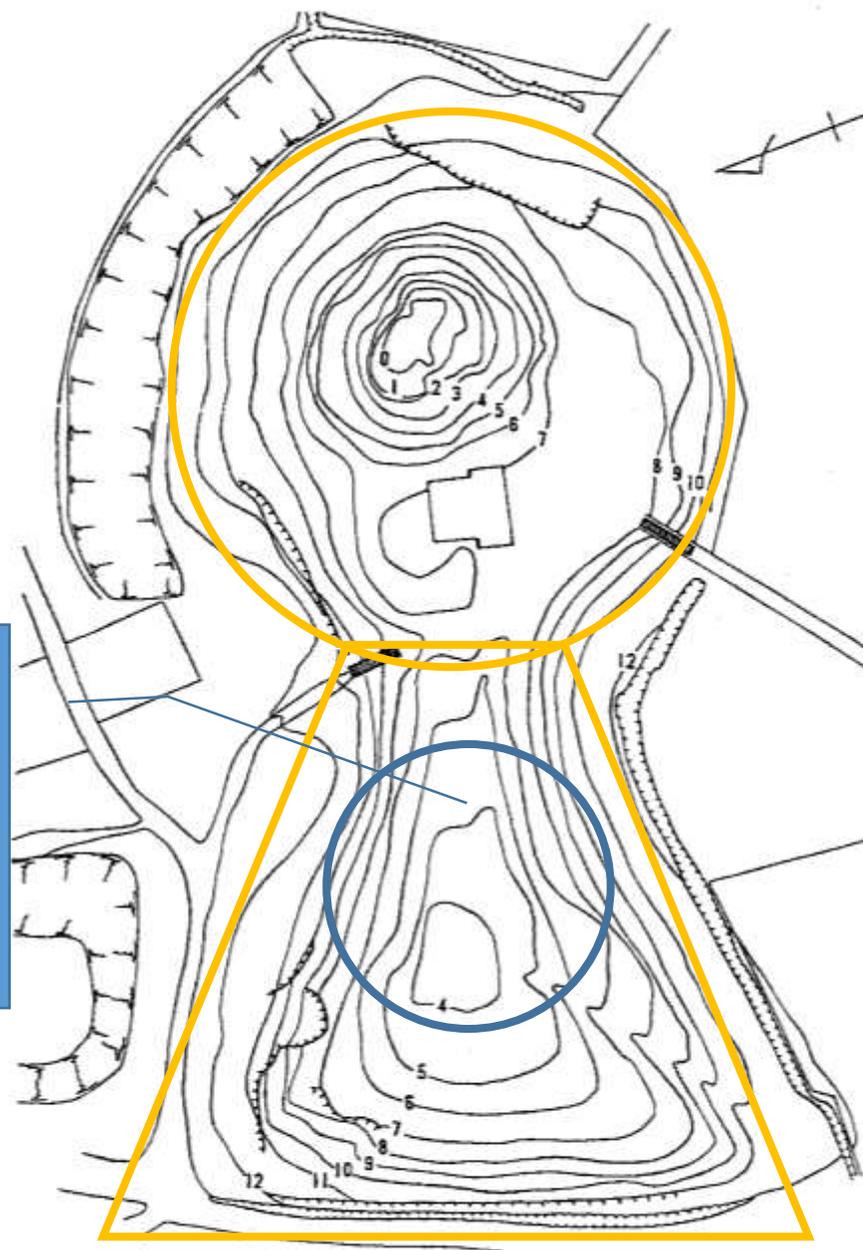
江戸時代、古墳の上にさらに土をもってつくられた、富士山を模した塚



富士塚(中央)と薬師堂(左)

名前の由来

かつて、この場所に牛頭天王社が
建っていた⇒天王山塚



埴輪(はにわ)



伝栢間古墳群出土埴輪

- 古墳の上や周りに置かれていた、いろいろな形をかたどった土製の焼き物
- 円筒埴輪と形象埴輪がある
- 円筒埴輪は土管のような形の埴輪で、墳丘や堀の周りに列状に並べられた
 - 古墳という聖域を守るために置かれたと考えられている

形象埴輪は様々な種類がある
(巫女、武人、力士、馬、水鳥、家、大刀...)

→生前の被葬者の姿や役割を古墳上で表現するために並べられたと考えられている

- 天王山塚出土の円筒埴輪の破片は6世紀後半のものと考えられている

天王山塚はどんな人物の墓なのか



薬師堂礎石に転用された石室使用石材

かく せん せき あん ざん がん

角閃石安山岩

- 群馬県の榛名山の噴火でできた火山岩
- 群馬県から河川を利用し栢間まで運ばれてきた
- かみつけぬ上毛野地域の勢力は東国で最も大きな力を誇っていた
- 角閃石安山岩は上毛野地域の首長が重用していた石材であり、どこの首長でも自由に使用できるわけではなかった
- 石室に使われていた可能性があり、被葬者は上毛野地域の最高首長層との関係のある人物か



埼玉古墳群とその周辺の古墳分布 『新編埼玉県史通史編』付図

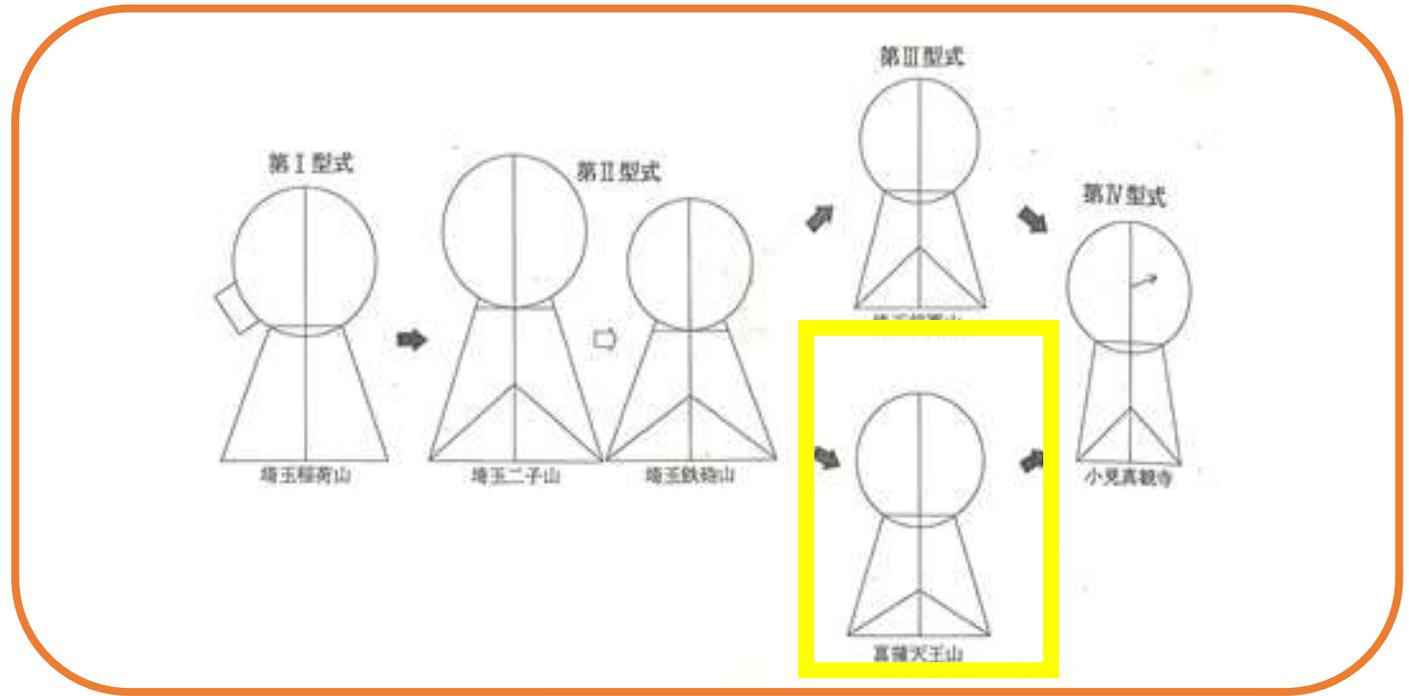
6世紀後半の社会背景

- 北武蔵地域での最高首長層の古墳である埼玉古墳群の將軍山古墳は全長90m
- 天王山塚(107m)、真名板高山古墳(104m)、若王子古墳(95m)など埼玉古墳群勢力と同規模もしくはそれ以上の大きさの古墳が、埼玉古墳群周辺に一斉にあらわれる
- それまでの埼玉古墳群の絶対的優位性が崩れる
- 政治的変動か

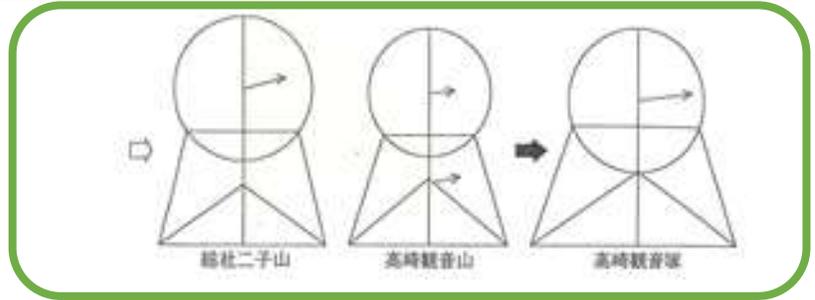
古墳の設計規格

- 北武蔵地域では一貫して、くびれ部が狭く前方部が長いという設計法が採用されている
- それに対し、上毛野地域はくびれ部が広く前方部も短い規格を採用
- 被葬者の出身は北武蔵地域の伝統的な勢力である可能性が高い

北武蔵地域の前方後円墳



上毛野地域の前方後円墳



75

若松良一1982「葛蒲天王山塚古墳の造営時期と被葬者の性格について」『土曜考古』第6号より転載

推察される人物像

- 墳形が首長墓に多い前方後円墳であること、100mを超える大型古墳であることから、相当な有力者
- 使用が限定される石材角閃石安山岩を用いていることから、上毛野地域の最高首長層と関係があった人物か、または遠隔地から石材の供給を行うことができた政治力と財力をもった人物
- 墳形の規格は北武蔵地域で一貫して採用されているものであることから、北武蔵地域の伝統的な勢力の出身
- 埼玉古墳群を形成してきた勢力とも匹敵する首長

⑤神明神社



神明神社拝殿

- 天照大神、豊受大神(とようけのおおかみ)を祭神とする
- 社伝によれば、景行天皇の御代(71~130)の創建
- 江戸時代、徳川譜代の内藤正成が栢間村を含む菖蒲領5か村を領有するようになってから、5か村の総鎮守として、歴代の領主も社殿を修造するなどして崇敬した
- 神明神社の社叢(神社の森)は埼玉県の天然記念物に指定されている

神明神社の社叢(しゃそう)



- 参道の長さは500m超
- 社叢は参道林と境内林とからなり、木々の自然な植生を見ることができる
- 境内林は、高木にアカシデ、部分的にスギが点在し、低木ではヒサカキ、シロダモなどがある

神明神社の社叢(埼玉県指定文化財)

神明神社 オヒタキ・筒粥(つつがゆ)の神事



平成27年度のオヒタキの神事の様子

- オヒタキの神事: 薪を燃やし、無病息災、子孫繁栄、五穀豊穰を祈る
- かつては薪から燃えさかる炎のまわりを氏子の男たちが半裸で肩を組んで巡ったといわれる
- 平成26年度まで、オヒタキの残り火で米と節のない筒状の葦を炊き、筒に入った米粒の数でその年の作物の豊凶を占う「筒粥の神事」が行われていた